

6 山口県周南市須金地区における土地資源棚卸し調査

(1) 調査地域の概要

山口県周南市は、山口県の南東部に位置し、北は島根県境、南は瀬戸内海に接している。南部の海岸線に沿って大規模工業地帯が形成されており、北部には農山村集落が散在している。平成15年4月に徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併し周南市が誕生した。

須金地区は旧徳山市に属するが、市の中心部から車で40分かかる位置にある。地区の人口は512人、高齢化率60%、うち75歳以上高齢者比率が41%（平成20年4月末現在）であり、須金地区にある16の集落のうち9集落が小規模・高齢化集落である。

平成18年度からは中学校が休校し、平成20年2月には農協が地域から撤退したため、「地域の暮らしを守る」、「地域を元気にしていく」ことを目標に、「生きがいのある須金をつくる会」を結成し、地域拠点「ふれあいプラザ須金」の運営や、住民アンケートの実施などを行っている。また、活動の中から抽出された地域課題を解決するために、女性グループによる集落点検やワークショップを実施している。

これらの活動から導き出された方向性を「須金の夢プラン」としてまとめている。



図3-6-1 須金位置図

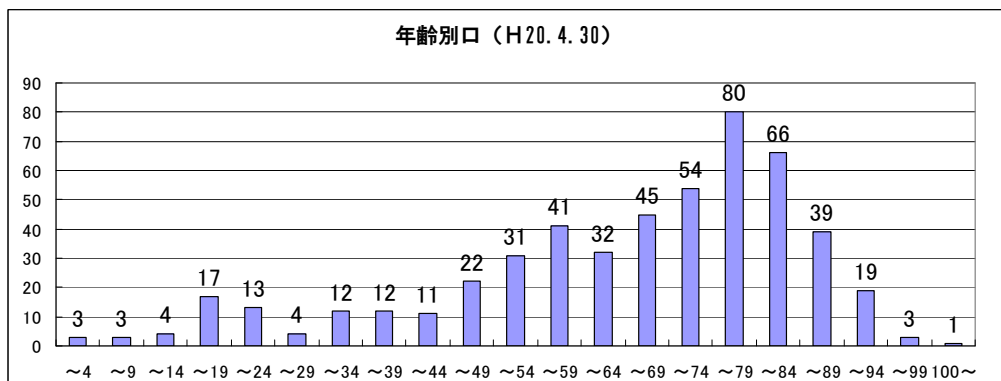


図3-6-2 須金地区の人口ピラミッド

（2）調査体制および手法

1）調査体制

本調査は、「生きがいのある須金をつくる会」が実施したアンケートで抽出された空き家の問題に対して、その有効活用を図るための基礎資料を得ることを目的に実施した。調査および結果の活用も含め、「生きがいのある須金をつくる会」や女性グループに協力いただき、その支援をルーラルウェルカムセンター、山口県立大学等の専門家チームや山口県地域振興部中山間地域づくり推進室、周南市企画課、周南市須金支所等の行政機関が行った。島根県中山間地域研究センターは、活動支援とともに空き家をはじめとする家屋情報の GIS データ作成も担当した。

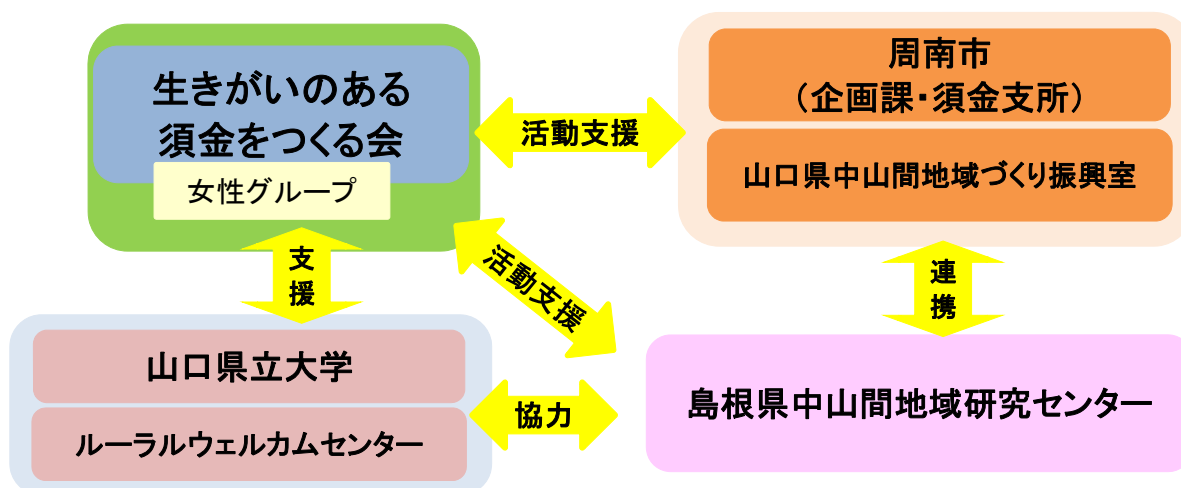


図 3-6-3 調査実施体制図

2）調査手法

家屋、農地についての情報収集は、女性グループを中心に実施した地区点検活動によって把握した。これらの情報を島根県中山間地域研究センターで GIS データ作成し、地域や関係機関で活用できるように、安価な GIS ソフト「地図太郎」（東京カートグラフィック（株））で利用できるファイル形式に変換した。また、背景に使用した航空写真については周南市より提供いただいた。

さらに現地踏査を実施し、詳細な情報収集を行った。

（3）家屋の状況

調査した 251 軒のうち、空き家は 44 軒、二地域居住などにより一時的に不在となっている家屋は 13 軒存在した。空き家は縁辺部に限らず地域全体に分布していたが、集中して存在している地区もあった。

また、高齢者のみ居住する家屋は 112 軒あり、そのうち独居高齢者居住家屋は 66 軒も存在した。このような高齢者のみ居住する家を把握できたことは、地域福祉においても非常に有意義であった。また、このような世帯は、今後空き家になる可能性も高く、今のうちから活用を考えておかねばならないことが共通認識できた。

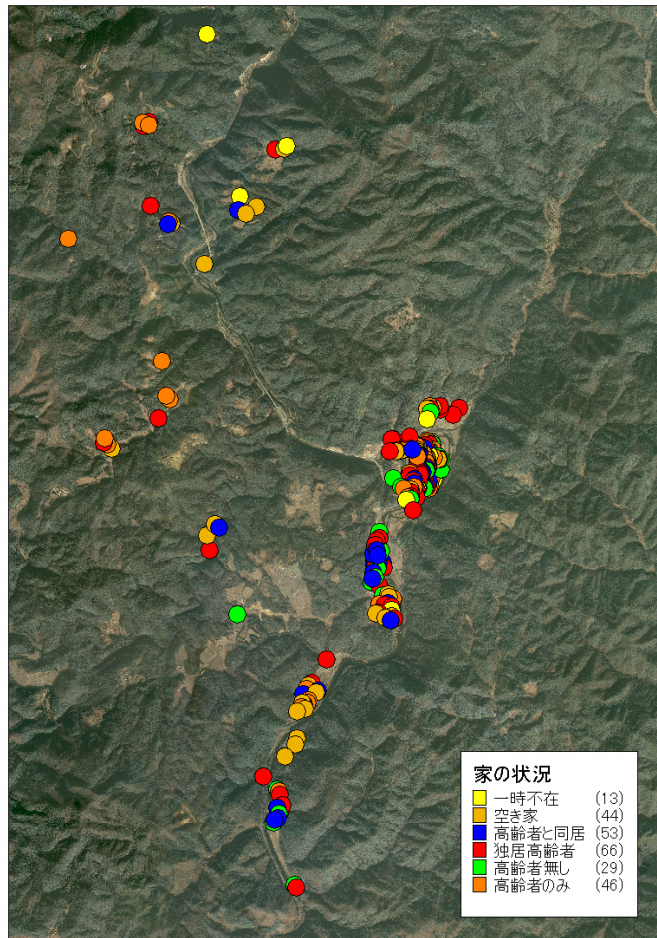


図 3-6-4 家屋状況マップ

（4）地域情報マップ

地域の情報には、地域の良いところ、困っているところ、要望したいところや史跡名所などである。

地域情報として挙げた項目は次の通りである。（一部を抜粋）

■ 地域の長所

- ・ 雲海がよく見える場所 ・ 蛍がいる場所
 → 景観に優れている場所

- ・ 別荘 ・ 他地区から農業をしにきている。
 → 他地域との交流の場所

■地域の短所

- ・いのしし、カラス、サルなどによる畑への被害
- ・町の中にイノシシが出はじめる、猿が農作物を荒らし始める
 - 鳥獣被害の多い場所
- ・田んぼが荒地になっている
- ・高齢になり耕作不能になる
 - 農業に関すること
- ・松の大木の枯れ木が何時倒れてくるか分からない
- ・豪雨の時に土砂崩れの危険がある
 - 地域の安全に関わること

■地域の要望

- ・郵便局は絶対に残してもらいたい
- ・新しい橋を架けて欲しい！
 - 施設などに関わること
- ・上下水道をひいて欲しい！
- ・携帯電話の圏外から脱出したい！
 - 生活に関すること
- ・直売所の空き地があれいている所に季節の花を植えると良いかなと思う
- ・旧道の桜並木道は残して欲しい
 - 景観に関すること

■地域の名所

- ・長渡路の古戦場
 - 史跡など
- ・スイリュウヒバ
 - 樹木等
- ・地蔵尊
- ・イチイ
- ・代官屋敷跡
- ・ゴヨウマツ

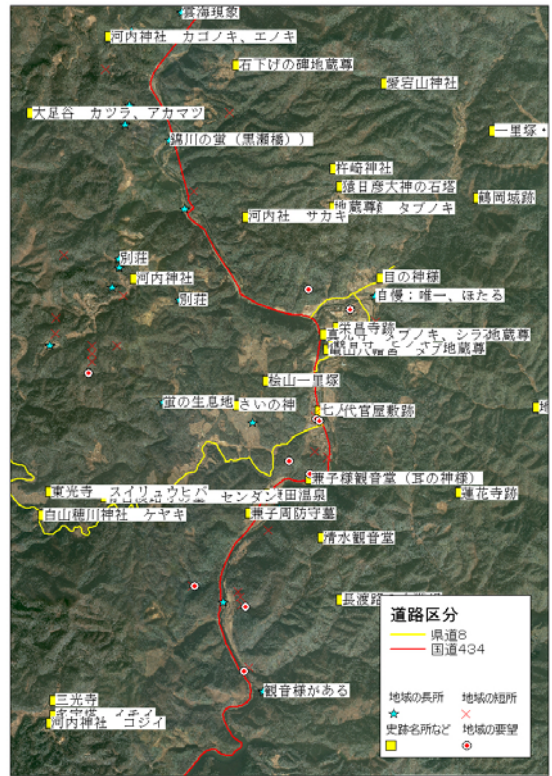


図 3-6-5 地域情報マップ

これらの情報は、実際に足を運んで得られた情報であり、これを共有することで地域課題の解決や地域再生につなげている。

(5) 農地調査

島根県中山間地域研究センターで作成した農地地図データを基に、農地マップの作成を行った。

この地域では前項の「地域の短所」にもあったとおり鳥獣被害が非常に多く、多くで地域の耕作放棄されている農地が存在し、現在耕作されている農地は観光果樹園を中心にわずかである。このような情報を基に地域住民、関係機関等で今後の農地利用について協議した結果、農地マップは、実際に耕作されている集落から情報収集を行って行くことになった。

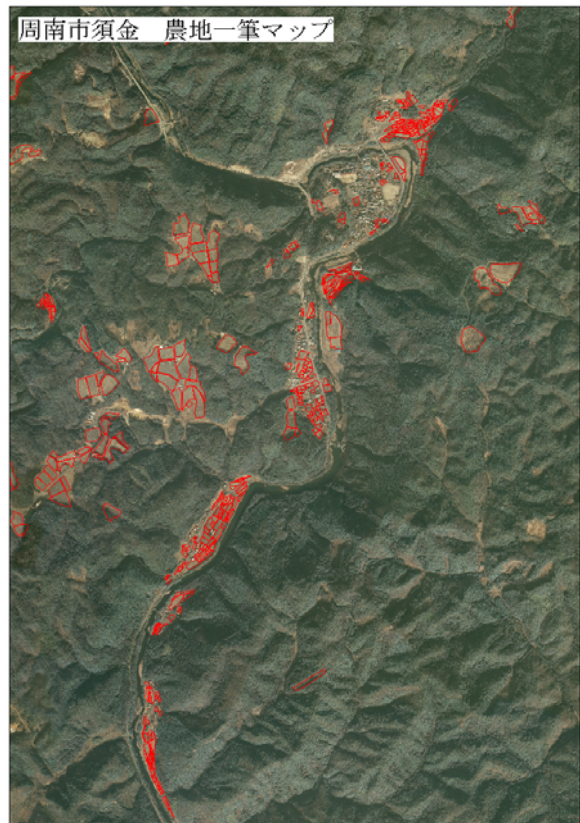


図 3-6-6 農地地図データ

調査対象集落における農地所有者の多くは地域在住者であるが、その年齢は 75 歳以上の方がほとんどである。この集落は須金地域の中では耕作放棄地が少ない地域であるが、一名を除いて所有者と耕作者が同一であり、今後の継続的な耕作が見込めない状況が明らかとなった。この集落の中心的な耕作者の一人である K 氏は、「子供が農業をするとも思えない。作れなくなったら、スギでも植林しようと考えている。」と言っていた。他の集落でも耕作放棄地が増しているため、耕作者の確保と鳥獣害対策を急いで実施する必要がある。

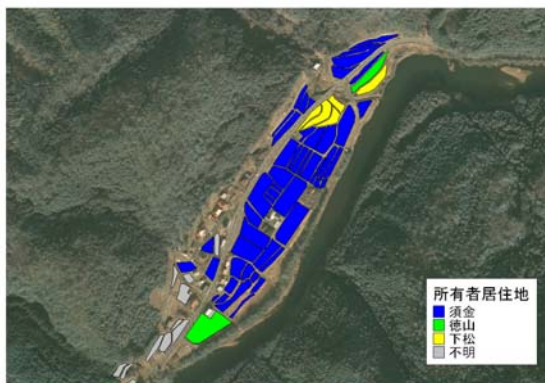


図 3-6-7 農地所有者別マップ

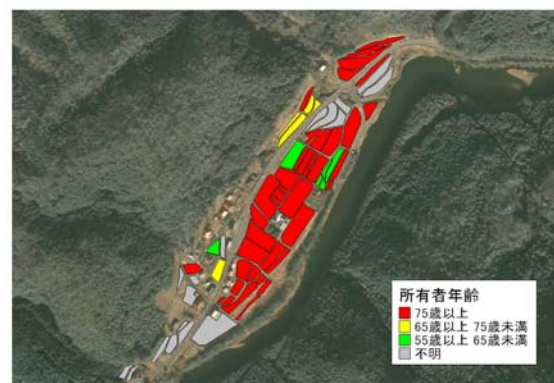


図 3-6-7 所有者年齢別マップ

（6）山林調査

山林の調査は、須金地域在住の山林状況に詳しい方にヒアリング調査を実施して行った。航空写真にわかる範囲で、境界と所有者に関する情報を記入していただき、それに基づきGISマップを作成した（図3-6-8）。

現在、須金地域に所有している所有者も多くいるが、その後継者の多くは他出しており、10年後には山林所有者のほとんどが不在地主になることが予想される。また、管理状況は一部で公社造林が行われているため、管理を所有者以外の人が行っているが、多くが個人管理となっており、所有権が不在化していくとともに放置山林が増加すると考えられる。

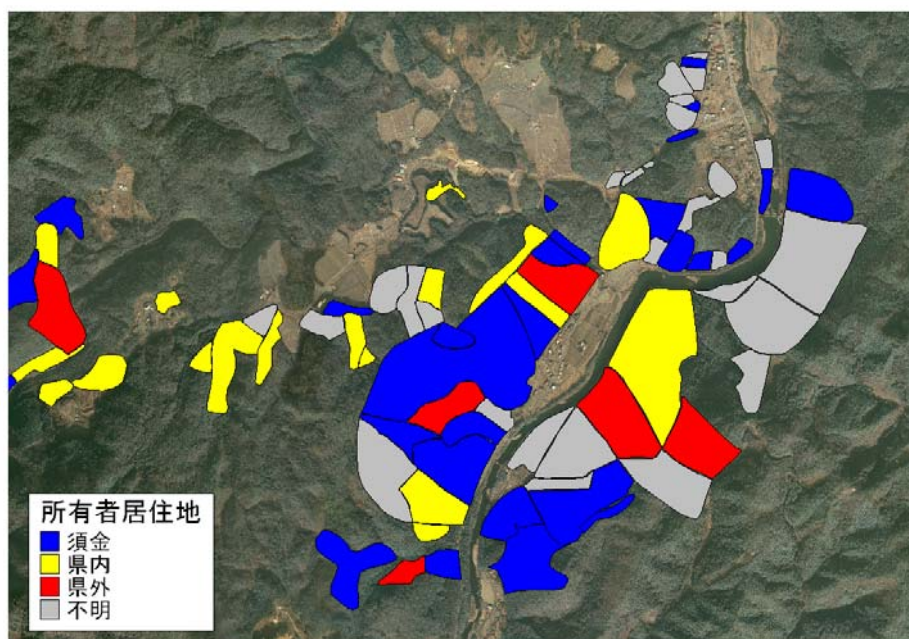


図3-6-8 家屋状況マップ

（7）今後の展開について

1）家屋について

今回の調査は、女性グループメンバーがいる集落を対象としたものであり、今後は調査を実施していない集落へ対象地域を拡大して、調査を実施していく予定である。さらに、家屋の情報についても、修繕の必要性の有無・程度など、より詳細な情報を収集していき、空き家を中心に家屋の利活用や、高齢者みまもり活動など地域福祉などについて検討していくことになった。また、調査結果は新規定住者確保につながるように、行政等関係機関で共有していく予定である。

2）農地について

地域住民との意見交換では、農地の利活用を進めるためには鳥獣被害対策が必要であるという結論に至り、鳥獣被害情報の収集を行い、その対策を検討していくことになった。今後、耕作放棄地も含めた農地管理について、定住策も兼ねて新規耕作者の確保も視野に入れ、「須金夢づくりプラン」に基づいて地域作りを行う予定である。

3）棚卸し調査を通して

今回の調査により、須金地域の現状や今後の地域の姿を表現することができ、「生きがいのある須金をつくる会」の女性グループだけでなく、地域住民も調査の重要性が理解していただくことができた。この情報を住民と共有することにより、住民の間にも危機意識が強くなり、「自分達できることから始めよう」「まちづくり計画を自ら行っていこう」といった前向きな意識醸成が行えた。

各マップについても住民合意による地域再生に向けた行動指針である「須金の夢プラン」策定に寄与でき、地域の土地資源活用に光明を見いだせたことは非常に有意義なことである。

今後は調査だけでなく今後の利活用方法についても、関係機関が連携しながら支援していく必要があると考えられる。

